

「戦国武将が信仰した白山大権現」信長と家康

はくさん だいこんげん

今年の白山開山1300年祭の関連特集として、毎号、白山文化に関する市内の博物館展示などを紹介しています。今回は、近日、開催する白山文化博物館の特別展「美濃馬場と戦国武将」をみていきます。ここでは、みなさんもよく知っている戦国武将にまつわる展覧品の中から、みどころをご紹介します。

戦国武将と白山信仰

昨年度のNHK大河ドラマ「真田丸」を、みなさんはご覧になりましたか。真田屋敷の床の間に「白山大権現」と大きく書かれた軸が、いつも掛かっていたのに気づかれた人もいらっしゃると思います。

「白山大権現」は、いわゆる白山の神のことです。郡上になじみ深い白山信仰と、有名な戦国武将の關係に興味を持たれたのではないのでしょうか。長野県上田市の真田氏歴史館によると、ドラマに多少の脚色はありますが、実際に真田一族が白山系の氏神を信仰し、社殿の修復

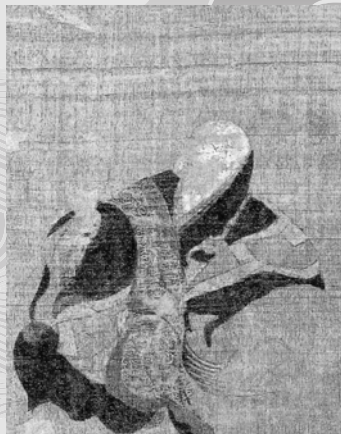
などを行った記録があるという話でした。そして、真田氏発祥の地である長野県には、今もたくさんの方の白山神社が鎮座します。真田氏のように、戦国武将たちは神仏を信仰し、その加護を得ようとしていました。白山の神も、戦国武将たちから深く信仰されていたのです。

徳川家康と長瀧寺の「白山瀧宝印」

「白山瀧宝印」は牛玉宝印という護符の一種です。昔の人たちは、約束を交わす時に、起請文という神仏への誓いを記した文書を作りました。その起請文には、牛玉宝印という護符を使っていたのです。つまり、神仏に誓って約束を守るために、牛玉宝印にじかに誓約を書きました。も

し、誓いを破った時は神仏から罰が下ると考えていて、人々はとても恐れたのです。

戦国時代の武将たちも、起請文に牛玉宝印を使いました。牛玉宝印は各地の限られた寺社が発行していて、美濃馬場の長瀧寺でも「白山瀧宝印」という牛玉宝印を発行していました。実は、この「白山瀧宝印」は、徳川（松平）家康（1543〜1616）が起請文に使っていた。家康の「白山瀧宝印」の起請文は、永禄3年（1560）から28年間にみられるのです。そして今も、長瀧寺には「白山瀧宝印」の護符を刷った時の版木が所蔵されています。



▲信長に謁見した長瀧寺の道雅



▲信長拝領と伝える膳具一式



▲信長拝領と伝える軍配



▲白山瀧宝印の版木刷



～白山開山1300年特別展のご案内～

第2回「美濃馬場と戦国武将」

会 期 9月13日（水）～11月6日（月） 火曜日休館
時 間 午前9時～午後4時30分（入館は午後4時まで）
会 場 白山文化博物館（白鳥町長滝402）
入館料 大人310円 小中学生100円
お問い合わせ 白山文化博物館（☎85-2663）
教育委員会社会教育課（☎67-1128）